

祝初優勝！ 東海大学駅伝部表敬訪問

2019年1月23日

つい先日、年が明けたと思ったら、もう1月も終わろうとしています。インフルエンザが猛威を振っていますので、どうぞご自愛ください。

さて、お正月恒例の箱根駅伝は、初出場以来46度目の挑戦で、見事悲願達成の東海大学の優勝で今年の幕を閉じましたが、その東海大学駅伝部の一行が地元市へ優勝報告にやって来るということなので、伊勢原市役所へ取材に勇んで出かけました。

市役所へ到着すると、昼休み時間中にもかかわらず、既に市長以下大勢の職員と、集まった駅伝ファンの市民の皆さんで、1階ホールはごった返していました。



優勝以来、時の人になられた両角監督を先頭に、優勝カップや盾を持った選手が到着しました。

ホールに入り切れないファンのために、手前で車を降り歩いて登場です。



職員手作りの紹介幕が掲げられた、市役所1階のホールが特設の報告会場となりました。

優勝報告会が始まると集まった400人のボルテージは一気に高まり、スマホのシャッターが次々と押されます。



市長挨拶に続き、両角監督からは応援に対するお礼と共に「地元大山トレーニングの成果が出せた。2連覇に向けて頑張る」早くも来年への決意が語られました。

続いて試験期間のため代表して来訪した5人の選手からも、一人ずつ挨拶がありました。



8区を走り首位となり初優勝に導き、今年のMVPにも輝いた小松選手は「たくさんの声援のお蔭で楽しく走ることができた」と感想も謙虚です。



全員の挨拶が終わったところで、クルリンも入ってお待ちかねの撮影タイムです。

選手の皆さんは、長距離ランナーらしくスーツ姿は細身です。

市からは記念品として大山コマとクルリングッズも送られました。



最後に参加者全員で優勝を祝した万歳三唱で閉める予定でしたが、音頭を執る両角監督と同期の市役所課長が、東海大学応援歌を熱唱して会場をさらに盛り上げました。

東海大学駅伝部の一行は、朝から平塚市秦野市と廻り、最後に伊勢原市を訪問されたそうですが、取材のため同行されていた旧知の新聞記者から「伊勢原が参加人数も、盛り上がりも一番だった」という有難い感想をいただきました。